

「日本一の多文化共生県」をめざして —— 静岡県企画部多文化共生課

はじめに

静岡県は日本のほぼ中央に位置しており、海や山、湖などバラエティに富んだ自然は、日本の豊かな風土の縮図ともいえます。2024年12月末の静岡県内在留外国人数は、12万4,281人（法務省「在留外国人統計」）で過去最多であり、国籍別の在留外国人数はブラジルが最も多く、次いでフィリピン、ベトナムの順となっています。

そんな本県では、1990年から国際交流員（CIR）の任用を行っており、2025年7月現在、4人のCIR（フィリピン、ブラジル、ベトナム、カナダ）が勤務しています。業務内容は、出前教室、防災講座、外国人に対する情報提供、通訳・翻訳など、多岐にわたります。



集合写真（左からロイス CIR、ホン CIR、ミレナ CIR、キンバリー CIR）

出前教室

次代を担う子どもたちをはじめとした、県民の多文化共生に対する理解を促進するため、県内小・中・高校、公民館などへ出張し、母国の文化や暮らし、やさしい日本語などについて紹介しています。出前教室が終了したあとは、CIRの母国に対して「行ってみたいくなった」「好きになった」などの感想を伝えていただけることも多く、受講者の皆様からのあたたかい声にいつも励まされてい

るようです。

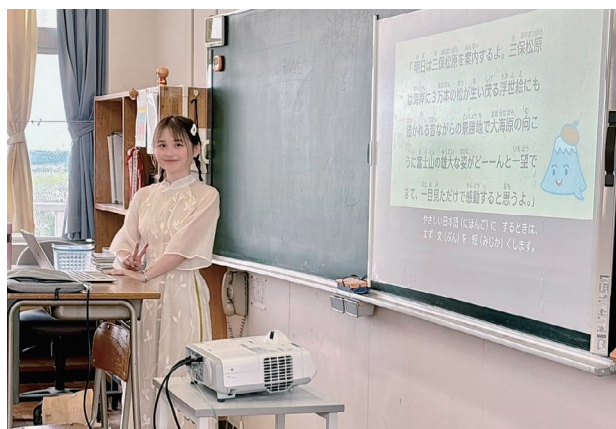
○出前教室の概要

1 世界の文化と暮らし出前教室

- ・各国の暮らしと文化
（基本情報・衣食住・観光地・通貨・学校生活など）
- ・「やさしい日本語」の紹介

2 「やさしい日本語」教室

- ・静岡県に住む外国人の状況
- ・「やさしい日本語」の紹介やクイズ
- ・「やさしい日本語」で外国人と話すときのポイント



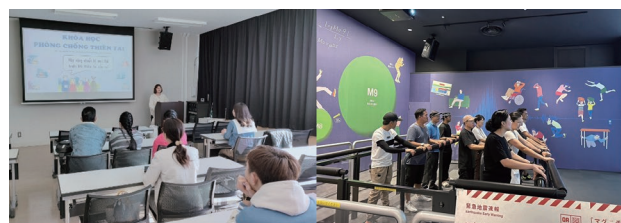
「やさしい日本語」教室（ホン CIR）

防災出前講座

外国人県民を対象に、防災の基礎知識を学ぶ防災出前講座を実施し、外国人県民の自助力・共助力の向上を目指しています。日本は地震が多い国であり、特に本県は、南海トラフ地震により甚大な被害が発生すると予測される地域です。そんな本県だからこそ、防災出前講座の実施は非常に意義のあるものです。

担当のロイス CIRによると、防災出前講座を実施した際、殊に受講者からの反応が良いのは、簡易式トイレだそうです。災害時に備えて、食べ物や飲み物を用意し

ている方は多いですが、その一方で、簡易式トイレの必要性に気付いていない方も多く、[初めて知った] [来てよかった]などの反応をいただくことがしばしばあります。今後は、より多くの方に防災出前講座を受講いただき、災害への備えや、災害発生時の行動に是非役立てていただきたいと願っています。



**外国人社員・スタッフ向け
防災出前講座
参加企業募集中！**

突然来る災害に
備えましょう！

外国語で防災の基礎知識を学ぶことができます。

対象費用 無料

対応言語 やさしい日本語、英語、ポルトガル語、フィリピン語、ベトナム語※
※ベトナム語は5月末まで対応可能予定

地震への備え 大雨が降ったら 非常食 防災トイレ ハザードマップ 多言語対応 防災アプリ

内容・場所・人数相談
まずはお問い合わせください
TEL.054-221-2178
静岡県 多文化共生課 E-mail: tabunka@pref.shizuoka.lg.jp

防災講座のチラシ

外国人への情報提供

当課では、日本語に不慣れな外国人県民に向けて、SNS (Facebook) などにより、「やさしい日本語」や多言語で生活情報、県からのお知らせ、日本の文化などの情報提供を行っています。より大勢の方に、より多くの有益な情報を発信できるよう、週3～5回程度で更新し、地域イベントの投稿にも力を入れるなど、工夫を凝らしています。



多文化共生 Facebook
(やさしい日本語版)
プロフィール写真

Facebook 担当のミレナ CIR は、「どうすれば投稿を楽しんでいただけるのか、継続的に見ていただけるのか

日々考えているので、投稿にいいねやコメントなどの反応が来ると、情報が届いたという実感があって嬉しいです」と話していました。

今後も、CIR ならではの視点で、外国人県民に必要な情報が何かを考え、生活に役立つ情報の発信を期待します。

ネイティブチェック・通訳

当課では、外国人県民向けに周知する外国語の文書をネイティブの視点で確認・修正するネイティブチェックや通訳の業務も担当しています。そのため、他課からの多種多様な依頼が日々舞い込んでくるのですが、英語の依頼はとりわけ多く、担当のキンバリー CIR は「新しい依頼が来るたび、大いに勉強になります」と前向きに捉えています。依頼内容は、ビジネス用語・法律用語・歴史用語など、さまざまであり、依頼に対応するための事前準備には骨が折れますが、訪れたことのない新しい場所に足を踏み入れるときのようなワクワク感があるそうです。日本語（翻訳前）と英語（翻訳後）の



スペインで開催されたイベントでの通訳（キンバリー CIR）

言葉のニュアンスを極力そろえるため、課内で相談したり、参考資料を探したりと尽力している様子をよく見かけます。

おわりに

静岡県は、「外国人は まちづくりのパートナー」とポジティブにとらえ、外国人のもつ文化的多様性を県全体の活力や成長につなげるという考え方のもと、「日本一の多文化共生県」をめざして取り組んでいます。

今年から新たに12月を多文化共生月間と定め、県民の皆様に多文化共生について意識し、考えていただく機会にしようと計画しています。CIRの皆さんには、多文化共生推進月間に開催するイベントにおいても、大いに活躍してもらう予定です。